

一、市役所の所へ添田理子と天野竹雨の二名  
二、田舎見を行ふ

七月十四日

一、新敷工身 一頁計 三百八元  
一、出立工身 二頁計 四百十二元  
一、應接者 新居石 新村の所 保釋出  
廻し 即ち帰るなり

一、奉りて開天鳥地の添田理子 野田の面合  
七月十五日

会社は倉庫の爲に休  
七月十六日 倉庫

午前 三時 重役の竹程之方よりイナイトを  
投大しとの考あり不察なりと多 神慮も市井  
は軽度の心怖り 神文配人宅に心怖 此  
の故を多し目的も遠也が投大しとの考あり  
鴨江殿の言に厚念して一團は市長宅を罷  
敷ししが被慮大なるあり 犯人の考なる者十  
大に 控まら

七月十七日

一、新敷工身 一頁計 三百九元  
一、出立工身 二頁計 四百十二元  
一、情況報告も 重役の所へ送る  
一、午後十時 次人鴨江神社内に三十名を計り